

活動名		団体名	特定非営利活動法人 みよし子育て学び支援あすなる
学力支援活動		地域	広島県三次市
		代表者	理事長 黒田 明憲
		支援金額	25万円
活動概要	<p>家庭の所得水準によって、児童生徒の学力の格差が大きくなってきています。学校で学力で落ちこぼれても、経費の高い学習塾に行くことも出来ず低学力のまま義務教育を終えなければならない生徒が多数います。あすなるは、こうした学習塾に行きたくても行けない「ひとり親家庭」「生活保護家庭」「経済的に恵まれない家庭」の小中学生を対象に、心の教育と学力支援を行い、「自分の進路は自分で拓く力」を育て、進路に希望を持たせる活動を行なっています。</p> <p>◆実施時期 学力支援教室(通年実施) 場所(会場) NPO法人あすなる事務所 子育て・進路講座(年3回) 場所(会場) NPO法人あすなる事務所 河川環境学習・清掃活動(月2回) 場所 馬洗川河川敷</p> <p>◆参加人数 ・河川環境学習・清掃活動の場合 あすなる学力支援教室生徒・保護者 61名 あすなるボランティア指導者スタッフ 11名 地域住民有志 約30名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員約100名</p>		



高校に行ったら奨学金を受けようと、遅くまで頑張る中学生たち



アユに新鮮なコケを食べてもらうために、水中の石磨き。ポウズリですり落としました



河川敷の清掃活動・水中の石磨きのあとは、アユの塩焼き体験。早く焼けないかな…



三次鵜飼の鵜匠さんに話を聞きました。中国から贈られた白い鵜もいます

◆実施に伴う効果

- 1 低学力のため、公立高校の定員内不合格者が三次市内でも昨年は 30 名を越えていたが、あすなろの設立が刺激となり、本年度は 10 名前後になった。あすなろ基礎学力支援教室の 3 年生 3 名は全員合格し、奨学金受給教室の 3 名も好成績で進学し保護者から大変感謝された。
- 2 子どもたちに「勉強せえー」だけでなく、地域に学びの風土を！ 家族に学びの家風を！ を目的に、「子育て講座」の中で生徒・保護者・住民も一緒に学ぶオープンコンテンツ(漢字・歴史・地理・文学等の常識問題)や「祖父母と孫の漢字講座」を実施している。回を追うに従って保護者・高齢者の参加が増えている。
- 3 NPO 法人あすなろのある八次地区の真ん中を流れる馬洗川に親水公園(国土交通省・三次市)の建設が企画されているので、公園予定地を中心にした清掃活動を通して感謝と奉仕の心を育てる活動は地域社会からも高い評価を得た。

◆苦勞した点

- 1 指導者の問題
「経済的に恵まれない生徒に学びの場を与えたい」を目的に設立したので、月謝・諸経費を出来るだけ低く抑えるため、学力支援を行う賃金雇用講師を最小限に絞り、退職教職員や地域の児童民生委員等のボランティアによる頼らなければならなかった。ボランティア指導者間の教育観の違いや指導方針のバラツキが出てきて指導の限界を感じた。教育に恵まれなかった子どもたちが対象であるから、教科指導に入る前提として、「この生徒の進路をどうするか」という指導者の情熱が問われるケースが多かった。助成をいただいたおかげで、中途より英語・数学の専任講師を雇用することができた。
- 2 生徒の学力格差の問題
生徒の学力格差と家庭の教育環境の状況で、伸びる生徒と落ちこぼれる生徒の格差が広がり、マンツーマンで教えなければならない生徒が出たため、予定より人件費が増えたが、3 月の高校受験段階には解消し、3 年生全員が希望した高校に進学した。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・ 小中学校は義務教育であるから、出来る子どもはさらに伸ばし、出来ない子どもには手をかけてでも力を引き出して、教育の機会均等の保障ということが教育本来の姿である。しかし、所得格差がそのまま学力格差となっている現状からすれば、誰かがどこかでこぼれていく子どもたちへの支援の手は必要である。背景には「貧困による負の連鎖」という大きな社会問題があるが、「暗闇の中の灯りは大きく見える」の言葉どおり、小さいながら、NPO あすなろの取り組みが子どもや保護者の心の拠りどころとした。あすなろの館がもっともっと学びの場となり、安らぎの場となるよう次の活動を加えていきたい。
- ・ 不登校・いじめ・問題行動などで悩む生徒や保護者の「かけこみ塾」。
- ・ 学校現場の先生たちの「悩み相談塾」。

◆活動を終えての感想・意見等

- ・ 暗い表情でやってきた子どもたちが明るくなって卒業していく姿に苦勞が吹っ飛びました。お金で買えない感動です。
- ・ 学力支援教室に来る生徒たちの言葉に「ありがとうございます」の言葉が増えました。
- ・ あすなろでは「この前教えたじゃあないか、また忘れたんか」は絶対禁句。ボランティアで参加して学びました。
- ・ 「楽しく学ぶ」から「厳しさを超えた学ぶ喜び」を実感させる学力支援教室に発展させたいです。
- ・ 生徒に教えたというより、生徒から「生きがい」をもらいました。生徒のみなさんありがとうございます。
- ・ 助成金をいただきありがとうございます。私たちの活動が「マツダ財団から認められた」ことがとても励みになり元気ができました。